

令和3年度
(2021年)

事業計画書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

(R3.3)

令和3年度 事業計画

はじめに

【環境認識】

昨年（2020年）は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は4月7日に、緊急事態宣言を発令し、当初は東京都など7都府県が対象だったが、16日に全国に拡大した。市民に外出自粛を呼びかけ、遊興施設や商業施設など幅広い業種に休業を要請。繁華街や駅周辺から人の姿がめっきり減り、マスクやアルコール消毒液など品薄が続き、買い占めや高額転売が相次いだ。

全国で外国人の観光客が激減、ホテルのキャンセルやイベントの中止が相次ぎ、感染拡大を防ぐために小中高校が臨時休校。また、北海道の鈴木知事は、週末の外出自粛緊急事態宣言をし、道内外の景気が大きく冷え込むなど影響を与えている。

当財団も役員の体調を考慮しコロナ禍を鑑み急遽理事会・評議員会を书面決議で行った。

【基本方針】

当財団は、設立33年目となるが、継続している事業の視察研修を国内に向け計画をしており、令和3年度の事業計画として、経常収益も昨年同様継続しつつ、寄付や支援を通し予算管理の徹底と公益に資する法人として、現状を踏まえ継続し、高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備向上と支援を通して、全ての人生きがいを持って生活できる社会づくりと社会福祉の増進寄与する事業をさらに継続し取り組んで参ります。又、多くの方々にも当財団の事業内容を理解して頂く為にもネットでの公開、ホームページも更新をして新しい情報を提供し多くの人に視野を広げて対応していきます。

【事業計画】

I. 福祉住宅の建築に関する助成及び情報提供事業（公益目的事業1）

(1) 助成金による福祉住宅建築支援

当財団設立以来、第33回目を迎える建築助成事業として今年も多方面から募集を募り継続していきます。少子高齢化にともない高齢化社会が進んできている中、高齢者や障がい者がもっと安全・安心して快適に暮らせる住宅、又、将来身体機能等が、低下しても安心して生活できる住宅の普及を目指します。福祉住宅として新築・リフォームされた建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなど福祉小規模集合住宅の建築主から広く数多く応募を受付し、有識者による審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し助成金を給付します。

又、助成金を受けられた応募者物件の中から優れたアイデアや提案をして頂きそれに対して設計士や施工された業者様に当財団の理事長から「感謝状と盾」を贈呈させていただきます。

(2) 福祉住宅建築助成事例集「ふれあい」発行

昨年度は、日本全国において新型コロナウイルスが蔓延しつつ、出張はおろか事例集の基盤となる建築助成の施主様に取材が出来ない状況下で、止むを得ず当財団の事業冊子「ふれあい」の発行が残念ながら出来なかった。今年度は世の中の状況を考え助成建築主や施工業者、又、道社協様からご紹介頂いたグループホームやデイサービスなど直接取材を積極的に行っており、今後の福祉、介護面等の参考となる事例や建築に関するアイデアなどを、当財団情報誌により広く提供していきます。

また、専門家のアドバイスや、工夫した点、実際に暮らしてみても感想なども数多く綴られております。冊子「ふれあい」及び情報誌「ふれあい総集編Ⅱ」は、地方自治体及び各社会福祉協議会など関係諸機関及び福祉団体関係への講演資料として配布をし、広く多くの地域の皆様に役立てていただきます。

Ⅱ. ノーマライゼーション理念の普及啓発事業（公益目的事業2）

(1) 広報誌「WITH LIFE（共に生きる）」発行

福祉に関する情報を掲載し、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。（年2回発行）

理事長を最初に「我らサポーター」として当財団各役員紹介を兼ねて取材し継続ながら、ノーマライゼーションを実践されている方々の対談やインタビュー、福祉事情の関連紹介や福祉住宅の設備、福祉機器、快適で便利なシステムなど、役立つ情報を広くわかりやすく紹介していきます。「ふれあい」と同様、地方自治体や介護支援の事業所及び社会福祉協議会など各関係諸機関に配布し、社会福祉の増進に役立てていただきます。

(2) 小・中学生による「安全・快適アイディア」コンテスト

当財団は、「すべての人が共に暮らし共に生きることがノーマル（正常）である」というノーマライゼーション理念の普及・啓発を図るため、子どもたちにアイディアを考えていただき“広いこころ”を育てます。

おとしよりや障がいを持つ人たちが、明るく楽しく生活できるアイディアや、安全に外出を楽しめる環境づくり等について多くの提案をしてもらいます。

本年度で第26回目を迎える「小・中学生による安全・快適アイディア」コンテストは、今まで同様多くの作品を募集し継続していきます。受賞を受けられた小中学生には、盾・表彰状・図書券・参加賞など応募者全員に毎年工夫し、数多く小中学生の皆さまに楽しく参加して頂けるよう運営します。

また、例年入賞発表している展示場所（さっぽろ地下街オーロラ会場）を多くの市民や小中学生の皆さま・ご家族に見て頂く為にも目の着くような場所を検討実行しております。

(3) 福祉事情に関する情報収集及び提供

昨年度は、中国をはじめとして世の中全体が新型コロナウイルスに蔓延しつつ、例年開催していた国内外の視察研修は計画でとどまり実施出来ませんでした。

また、国内においても訪問先には高齢者や障がい者が多くおられるケースが多く施設などに、大変ご迷惑をかけるような状況であり断念をしなければなりませんでした。

今年度は、国内に絞り評議員の忍先生からのアドバイスや道社協福祉課の方に

ご紹介頂いたグループホームや古民家をリノベーションした福祉施設などを視察先への状況を確認しアポイント取り検討し計画を進めていきます。

また、昨年も実施出来なかった今までに「ふれあい」の中で取材させて頂いた福祉住宅・福祉小規模集合住宅・施設など、障がい者に対して数年経過して現在ほどの様な生活状況を送られているかなど福祉事情の形跡をたどる為に、再度、取材をこころみあらゆる福祉全般に関する情報収集を目的とした取材を行い、冊子「ふれあい」作成致します。

他にあらゆる福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者等に呼び掛け、福祉住宅状況や福祉事情など把握し研修視察をし、視察研修報告書及び「WITH LIFE」等でレポートにて発表していきます。

Ⅲ. その他事業

公益法人としての責務を自覚し、この法人の目的を達成するため積極的に事業に取り組んでいきます。